

目標点の正解

入試データから先生が分析

志望校合格への目標点を定めるには、各大学の合格者最低点・平均点や、実質倍率、ボーダーといった入試データが欠かせない。これらのデータを分析、活用して得点戦略を立てるノウハウを、国公立5大学の入試データを例に嶋司 晃大先生に教えていただいた。



大阪府・桃山学院高等学校 進路指導部
こおし あきひろ
嶋司 晃大 先生

数学科主任。生徒たちが失敗を恐れず、何事にも全力でチャレンジする楽しさを実感できるよう、工夫をこらした指導に力を入れている。「卒業生講演会」や「学級通信」などを通じて、生徒たちが大学での学びに触れて視野を広げる機会も与えている。

合格者最低点・平均点

実質倍率

共テのボーダー

！ 注意

- ✓ 入試データの見方などについては、最初にP90・91の下を確認すること。
- ✓ 共テについては、2026年の共テ受験後は自己採点結果を最も参考にして2次の得点戦略を立てること。

配点パターンに応じて、得点戦略を立てる！

共テ重視型

- 合格者最低点・平均点が総合(共テ+2次)のみ公表されている場合、**共テのボーダー**を目安にする。
- ボーダーに相当する点数を**総合の合格者最低点(平均点)**から差し引き、2次の目標得点率を算出する。
- 共テのボーダーを下回ると**逆転合格**が難しくなるため、**ボーダーをクリア**することが最重要。

2次重視型

- 共テで目標点を下回る苦手科目がある場合、**早い段階から対策**を始めて、直前期までに苦手を解消する。
- 各種データを参考に、共テと2次の**演習の進捗状況を確認**し、学習バランスなどを先生に相談する。
- 共テのボーダーを下回っても**逆転合格の可能性**があるので、2次の目標点を決め、2次対策を継続する。

共テ・2次均等型

- 共テの得点目標を確認し、得点率が**低い科目を中心に演習**を早期に積み上げていく。
- 共テの目標点を**総合の合格者最低点**から差し引いて、2次で必要な得点に届いていない科目を中心に演習。
- 共テのボーダーを下回っても**逆転合格**はあるが、**共テでしっかりと得点**することが大切。

※本文中では、共通テストを「共テ」、2次試験を「2次」、実質倍率(=受験者数÷合格者数)を「倍率」と略記した。「共テのボーダー」とは、予備校が毎年実施する入試結果調査から算出した、「共テの得点率」(合格可能性60%<駿台予備学校>、50%<河合塾>)に相当することで、『螢雪時代9月号』の付録「合格難易度データ」に掲載。本記事では、河合塾の「共テのボーダー」で解説した。

共テ重視型



教養学部 教養学科
前期日程：2026年

募集人員 135名

共テ | 6(7)教科8科目(925点)

2次 | 英語(300点)

配点比率

共テ 76%

2次 24%

埼玉大学



工学部 情報工学科
前期日程：2026年

募集人員 40名

共テ | 6教科8科目(900点)

2次 | 数学(300点)、小論文(100点)

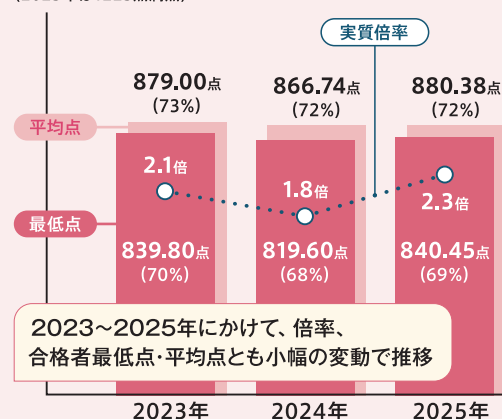
配点比率

共テ 69%

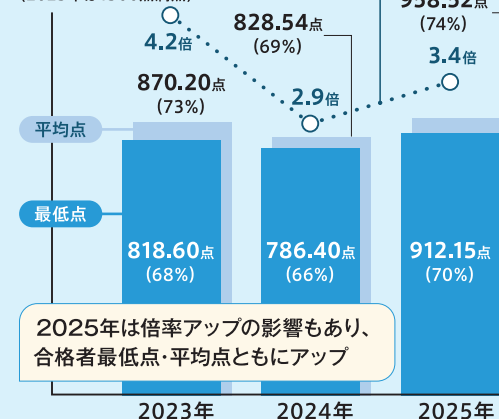
2次 31%

合格者最低点・平均点(共テ+2次)の例

1200点満点
(2025年は1225点満点)



1200点満点
(2025年は1300点満点)



合格への得点戦略

共テのボーダーから2次の目標得点率を算出

埼玉大学は、合格者最低点・平均点は総合(共テ+2次)についてのみを公表していますので、共テはボーダーを目安にしましょう。2025年で考えると、共テのボーダーは71%ですので、それに相当する点数(共テの目標得点)は「71%×925点満点=656.75点」と計算できます。総合の合格者最低点840.45点からこの656.75点を差し引いた183.70点(2次配点300点の61%)が、2次で最低限必要な得点です。この得点率61%を目標に過去問を解いてみましょう。

※P91~95では、国公立5大学の文系・理系学部を例に挙げ、2026年一般選抜の募集人員、共テ・2次の科目・配点、配点比率、および過去3年間(2023~2025年)の倍率、総合(共テ+2次)の合格者最低点・平均点を掲載した。また、合格者最低点・平均点それぞれの満点に占める割合(得点率)を()内に示し、グラフの高さは得点率を基準に表示した(満点が2024→2025年で変更されたため)。P91~93の大学の合格者最低点・平均点は、総合についてのみ公表されている。

総合の合格者平均点から共テのボーダー得点を引く考え方も

この学科は、共テの配点比率が69%と高いですが、得点がボーダーを超えていても油断できません。2025年で考えると共テのボーダーは73%ですので、それに相当する点数を「73%×900点満点=657.00点」と計算します。倍率がアップしているため厳しめに考えて、総合の合格者平均点958.52点から657.00点を差し引いた301.52点を2次の目標得点(2次配点400点の75%)として算出。この得点率75%を目標として演習を積みめばより安全です。

共テ重視型

東京都立大学

2次重視型

名古屋大学



人文社会学部
人間社会学科
前期日程：2026年

募集人員 70名

共テ | 6(7)教科7科目(850点)
2次 | 国語(150点)、地歴または数学(200点)、
小論文(100点)、調査書等(10点)

配点比率 共テ 65% 2次 35%

※2次の配点比率は、調査書等(10点)を含めて算出。



都市環境学部
都市基盤環境学科
前期日程：2026年

募集人員 26名

共テ | 5教科7科目(1000点)
2次 | 数学(200点)、理科(200点)、英語(100点)、
英語外部検定等の得点換算(100点)、調査書等(50点)

配点比率 共テ 61% 2次 39%

※2次の配点比率は、英語外部検定等の得点換算(100点)、調査書等(50点)を含めて算出。



経済学部
前期日程：2026年

募集人員 165名

共テ | 6(7)教科8科目(950点)
2次 | 国語(500点)、数学(500点)、英語(500点)

配点比率 共テ 39% 2次 61%



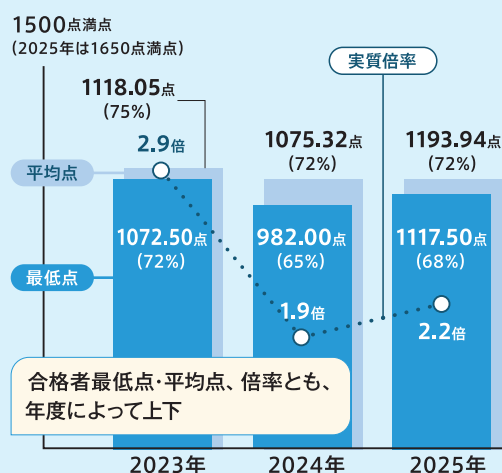
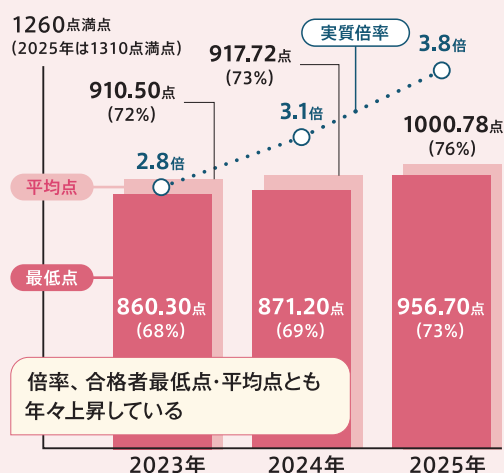
工学部 物理工学科
一般枠(前期日程)：2026年

募集人員 73名

共テ | 6教科8科目(635点)
2次 | 数学(500点)、理科(500点)、英語(300点)

配点比率 共テ 33% 2次 67%

合格者最低点・平均点(共テ+2次)の例



合格への得点戦略

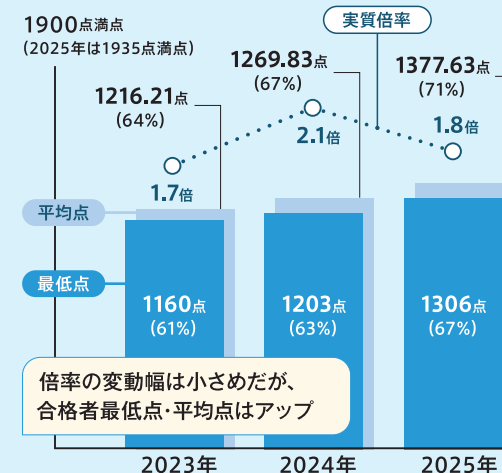
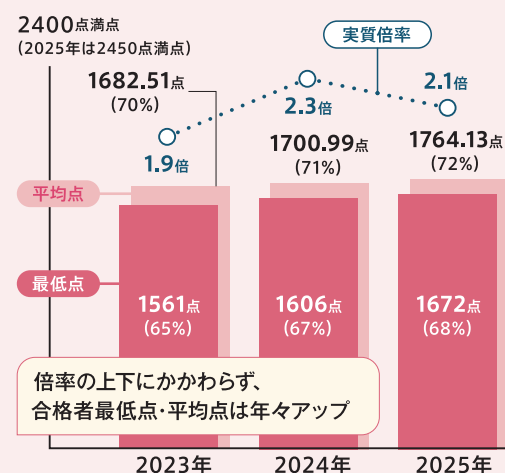
総合の合格者最低点・平均点と共テのボーダーとの差で検証

2年連続で合格者最低点・平均点、倍率ともにアップしているため、直近の2025年で見ていきましょう。共テのボーダー79%に相当する点数を「79%×850点満点=671.50点」と計算します。この671.50点を総合の合格者最低点956.70点から差し引くと285.20点、総合の合格者平均点1000.78点から差し引くと329.28点となります。この差が2次の満点460点に占める割合はそれぞれ62%、72%となるため、2次の過去問演習では6割〜7割程度の得点を目指しましょう。

倍率の変動を考慮して、過去問演習では合格者平均点を狙う

2次の配点は数学と理科で400点もあります。共テ重視型とはいえ、ボーダーを超えていなくても2次で逆転合格する人もいます。2025年で考え、共テのボーダー70%に相当する点数を「70%×1000点満点=700.00点」と計算します。この700.00点を、総合の合格者平均点1193.94点から差し引くと493.94点(2次配点650点の76%)となります。この得点率76%を過去問演習での目標にすることで、倍率の変動にも対応できるはずです。

合格者最低点・平均点(共テ+2次)の例



合格への得点戦略

2次重視のため、合格者平均点との差を重視する

2次配点が1500点と大きいために、共テのボーダーを24点下回っていても、総合計点(2450点)の1%にすぎず、一定の逆転合格があります。直近2年では合格者最低点・平均点ともにアップしており、2025年の結果で考えると、共テのボーダー80%に相当する点数を「80%×950点満点=760.00点」と計算できます。この760.00点を総合の合格者平均点1764.13点から差し引くと1004.13点(2次配点1500点の67%)。この得点率67%を2次目標の目安にしましょう。

逆転合格の可能性も考慮し、2次に必要な得点を算出する

合格者最低点・平均点は年々アップしており、2025年の結果で考え、共テのボーダー78%に相当する点数を「78%×635点満点=495.30点」と計算します。この495.30点を総合の合格者最低点1306点、合格者平均点1377.63点それぞれから差し引いた点数の幅(810.70点〜882.33点)を算出します。この幅の2次配点1300点に占める割合は62%〜68%となりますので、この得点率の幅を2次目標の目安として過去問演習に取り組んでいくとよいでしょう。

2次重視型

大阪大学



外国語学部 外国語学科
英語専攻
前期日程：2026年

募集人員 54名

共テ | 6(7)教科8(9)科目(235点)
2次 | 国語(100点)、地歴または数学(100点)、
英語(300点)

配点比率 共テ 32% 2次 68%



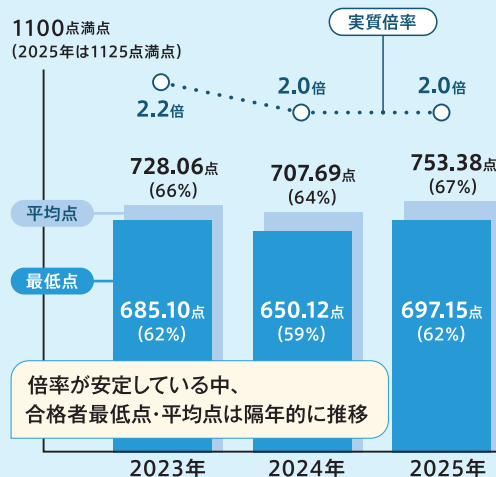
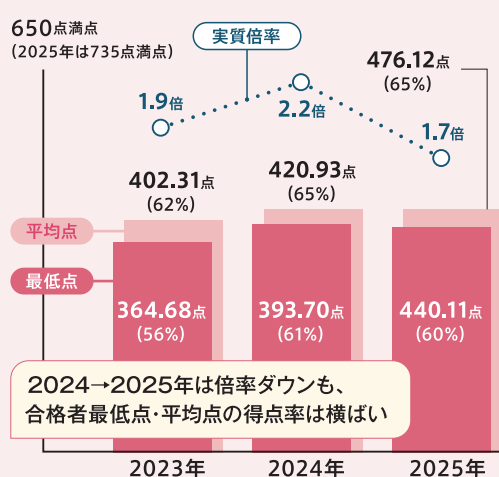
薬学部 薬学科
前期日程：2026年

募集人員 65名

共テ | 6教科8科目(425点)
2次 | 数学(250点)、理科(250点)、英語(150点)、
小論文(50点)、面接

配点比率 共テ 38% 2次 62%

合格者最低点・平均点(共テ+2次)の例



合格への得点戦略

総合の合格者最低点から 共テの合格者最低点を差し引く

大阪大学は、合格者の共テ・2次・総合のそれぞれで最高点・最低点・平均点を公表しています(下の※を参照)。2025年の共テで合格者最低点165.67点を取った人が総合の合格者最低点440.11点を取っていたとすると、2次で合格に必要な得点は「440.11点－165.67点＝274.44点」となります。この274.44点は、2次の合格者平均点285.59点(配点500点の57%)より少し低いです。そのため、過去問演習ではこの得点率57%を目標にするとよいでしょう。

※共テの合格者最低点は以下の通り公表。外国語学部 外国語学科 英語専攻(前期日程)：2023年＝92.00点、2024年＝106.67点、2025年＝165.67点。薬学部 薬学科(前期日程)：2023年＝306.75点、2024年＝305.87点、2025年＝324.75点。

逆転合格の可能性を 合格者最低点から検証する

2次の配点比率が62%と高いために、共テのボーダーより低くても逆転合格があります。2025年の結果で考えると、総合の合格者最低点697.15点から共テの合格者最低点324.75点を差し引くことで2次に必要な得点372.40点を算出できます。この得点は、2次の合格者平均点386.79点(配点700点の55%)よりも低くなっています。他の年度でも同様であるため、2次の合格者平均点の得点率を目標に、過去問演習に取り組んでいきましょう。

共テ・2次均等型

大阪公立大学



商学部
前期日程：2026年

募集人員 198名

共テ | 6(7)教科8科目(525点)
2次 | 国語(160点)、数学(170点)、英語(170点)

配点比率 共テ 51% 2次 49%



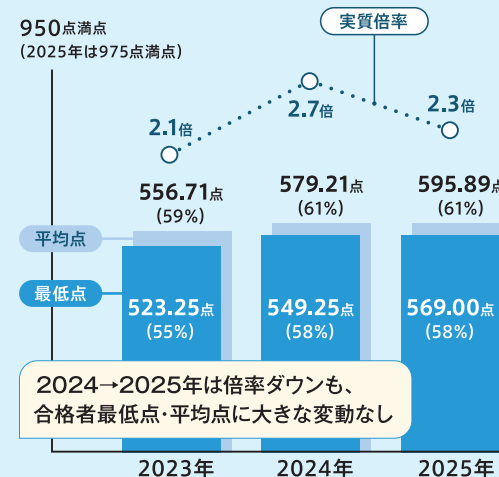
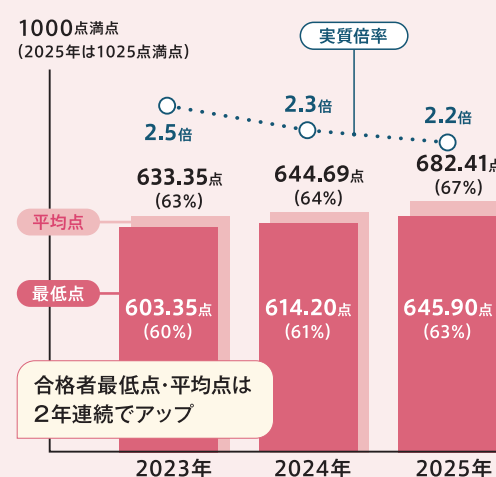
理学部 化学科
前期日程：2026年

募集人員 60名

共テ | 6教科8科目(475点)
2次 | 数学(200点)、理科(200点)、英語(100点)

配点比率 共テ 49% 2次 51%

合格者最低点・平均点(共テ+2次)の例



合格への得点戦略

共テの合格者最低点との差から 2次逆転の得点率を検証する

大阪公立大学は、合格者の共テ・2次・総合のそれぞれで最高点・最低点・平均点を公表しています(以下の※を参照)。2025年で考えると、共テで合格者最低点363.25点を取った受験生が総合の合格者最低点645.90点を取って合格したとすると、2次で282.65点(配点500点の57%)を取って逆転合格したことになります。これは、2次の合格者平均点277.52点(配点500点の56%)よりも高いため、過去問演習では得点率57%を目標にするとよいでしょう。

※共テの合格者最低点は以下の通り公表。商学部(前期日程)：2023年＝325.63点、2024年＝337.38点、2025年＝363.25点。理学部 化学科(前期日程)：2023年＝284.25点、2024年＝269.25点、2025年＝298.75点。

2次の合格者平均点など どのデータを参考にするかを検討

2024→2025年に倍率はややダウンしましたが、合格者最低点・平均点に大きな変動はありません。2025年で考えてみると、総合の合格者最低点569.00点から共テの合格者最低点298.75点を差し引くと、2次で必要な得点を270.25点(配点500点の54%)と計算でき、これは2次の合格者平均点246.63点よりも高くなります。そのため、2次の目標得点率を54%と定めて、それを超えるように数学・理科・英語の得点目標を設定し、学習を進めていきましょう。